

はじめに



栗原市は、ニッコウキスゲが原生する世界谷地や美しいブナ原生林を抱く栗駒山、その山懐を源とする迫川流域、ラムサール条約湿地の伊豆沼・内沼など、豊かで素晴らしい自然に恵まれたふるさとです。

その中で栗原の先人たちは、はるか縄文の時代から、生き物や自然を敬い、ともに生活を営みながら、美しい自然を守り受け継いできました。

こうした恵み豊かな「ふるさと栗原」を、今を生きる私たちは未来に引き継いでいかなければなりません。

本市では、平成20年3月策定の「栗原市環境基本計画」をもとに、森林・農地の維持管理や水環境の保全、ごみの減量化などを計画的に推進し、環境保全型農業や市民の皆様による美化活動の取り組み、ラムサール条約湿地である伊豆沼・内沼の保全活動など、「ふるさと栗原」を引き継ぐ活動において一定の成果が得られています。

しかしながら、高齢化や人口減少による担い手不足、あるいは経済情勢の変化による里地里山の荒廃や、野生鳥獣による農作物被害等の問題が顕著になるとともに、本市では二度の大震災や豪雨災害を経験し、災害時に生じる大量の災害廃棄物をいかに迅速に処理するかなど、新たな課題も生じております。

こうした実態を踏まえ、栗原の豊かな自然環境を引き続き守るため、私たちが具体に行動すべき道しるべのひとつである「栗原市環境基本計画」を、このたび改定いたしました。

計画推進にあたっては、市民、事業者、行政それぞれが主体的に考え行動し、目標とすべき栗原市の環境の将来像「人と自然が共生する『ふるさと栗原』の暮らしの創造」実現に向け、新たに各施策に対する指標を設定し、それぞれが連携しながら取り組んでいけるよう分かりやすくお示ししております。

恵み豊かな「ふるさと栗原」を未来に引き継いでいくため、市民、事業者の皆様とともに取り組んでまいりますので、皆様には、なお一層のご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

平成30年3月

栗原市長 **千葉健司**